

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
情報処理 I	平成 2 4 年度	渥美清隆	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

「情報」の概念・価値・性質・影響を、科学的・社会工学的に理解する。

[授業の内容]

前期

全ての内容が<基礎>の学習目標にも対応する。

- 第 1 週 ガイダンス, 演習室パソコン利用の習熟  
タイピングベンチマークテスト (TUT タイプ 10 章)
- 第 2 週 公式電子メール, コースマネジメントシステム  
(moodle)の習熟
- 第 3 週 情報の意義, 権利と義務
- 第 4 週 公開特許の検索・スライド作成  
第一回タッチタイプテスト (TUT タイプ 2 章)
- 第 5 週 公開特許の発表
- 第 6 週 著作権, 意匠権, 肖像権
- 第 7 週 噂, デマ, メディアとの向き合い方  
第二回タイピングテスト (TUT タイプ 5 章)
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 インターネットを支える仕組み(ルーティングと DNS)
- 第 1 0 週 インターネットを支える仕組み(アプリケーション)
- 第 1 1 週 ネットワーク上でのコミュニケーション  
第三回タイピングテスト (TUT タイプ 7 章)
- 第 1 2 週 ネットワーク上のセキュリティ
- 第 1 3 週 ネットワーク上での情報発信
- 第 1 4 週 情報化社会に生きる  
第四回タイピングテスト (TUT タイプ 10 章)
- 第 1 5 週 スマートフォンセキュリティ  
第五回タイピングテスト (TUT タイプ 13 章)

後期

- 第 1 週 10 進数の再定義と 2 進数の定義
- 第 2 週 10 進数, 2 進数, 16 進数の相互変換と 2 進数の加算
- 第 3 週 論理演算と 2 進数の減算
- 第 4 週 2 進数のシフト演算と乗算
- 第 5 週 小数点の導入
- 第 6 週 浮動小数点と IEEE754 形式  
第一回小テスト
- 第 7 週 浮動小数点の特徴と計算誤差
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 コンピュータの歴史と構造
- 第 1 0 週 スイッチとコンピュータの機能
- 第 1 1 週 ソフトウェアとオペレーティングシステム
- 第 1 2 週 パソコンの選び方, 扱い方
- 第 1 3 週 問題のモデル化と Maxima
- 第 1 4 週 共通鍵暗号化方式による情報伝送  
第二回小テスト
- 第 1 5 週 公開鍵暗号化方式による信頼確立とその限界

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
情報処理 I (つづき)	平成 24 年度	渥美清隆	1	通年	履修単位 2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鈴鹿高専の情報ネットワーク及び演習室パソコンが活用できる。</li> <li>2. 情報とは何か、情報に係る権利と義務を知っている。</li> <li>3. インターネットの基本構造を知っている。</li> <li>4. インターネットの社会的側面を知っている。</li> <li>5. インターネットの技術的側面を知っている。</li> <li>6. インターネット上のトラブルの解決手順を知っている。</li> <li>7. タッチタイピングができる。</li> <li>8. オフィスソフトを用いたプレゼンテーションができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 2進法, 10進法, 16進法の相互変換, 算術演算, 論理演算ができる。</li> <li>10. 実数計算の性質を知っている。</li> <li>11. コンピュータの基本構造を知っている。</li> <li>12. ソフトウェアの種類や役割について知っている。</li> <li>13. オペレーティングシステムの役割について知っている。</li> <li>14. 問題を解くためのモデルの記述について知っている。</li> <li>15. コンピュータで取り扱う暗号化技術を知っている。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>「情報」の概念・価値・性質・影響を, 科学的・社会工学的に理解できる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～15を前期中間試験・前期末試験・後期中間試験・学年末試験, 小テスト, 発表, 宿題および口頭試問で確認する。1～7の重みは40%程度, 8の重みは10%程度, 9～15までの重みは50%程度とする。合計点の60%の得点で, 目標の達成を確認できるレベルとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本教科は後に学習する「情報処理 II」の基礎となる科目である。また, コンピュータ, インターネットを扱う全ての講義の基礎ともなる科目である。</li> <li>・特に指示が無い限り, 前期は情報処理センター演習室で, 後期は教室で講義を実施する。</li> <li>・オフィスソフトにはOpenOffice.org(libraOffice)を利用する。Microsoft Office 2010の利用も認める。</li> </ul>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校技術家庭科にて, MS-Windowsの基本的なマウスオペレーションおよびワードプロセッサの操作(漢字入力とコピーアンドペースト)を習得していることを前提とする。未修得者については講義時間外に補修を行う。</p>	
<p>[レポート等] タッチタイプについては講義時間だけでは不十分なため各自, 出来る限り毎日5～10分程度練習すること。長期休暇中に宿題を課す。定期試験の2週間前を目途に小テストを実施するので, そのための準備もすること。</p>	
<p>教科書: ネットワーク社会における情報の活用と技術(実教出版)および学習ノート, ネットワーク社会の情報倫理(近代科学社), 国語表現活動マニュアル, 配布資料</p> <p>参考書: オープンガイドブック OpenOffice2.0(グッデイ), Microsoft Office 2003を使った情報リテラシー基礎(近代科学社)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験, 学年末試験の結果の合計を60%とし, 小テスト, 発表, 宿題などの評価を40%として加重平均し, 100点満点換算した結果を学業成績とする。平時の課題の正答率が80%以上であり, 再試験を希望する場合のみ再試を実施する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
材料工学序論	平成24年度	兼松秀行	1	前期	履修単位1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>初めて工学的な専門教育を履修する学生に対して、滞りなく学習できる体制を構築するための導入教育を実施することが本講義のねらいである。材料工学科の全教員によるオムニバス形式の講義を行い、材料工学の位置づけや、社会への材料工学の役割などについて理解し、5年間において材料工学の勉強を続けるためのモチベーションを高めることを目的とする。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>以下の内容はすべて、学習・教育目標(B)＜専門＞基礎に対応する。</p> <p>(材料の基礎)</p> <p>第1週 授業の進め方の説明と関数電卓の使い方</p> <p>第2週 関数電卓を用いた科学技術計算</p> <p>第3週 周期表と金属元素</p> <p>第4週 金属・セラミックス・高分子</p> <p>第5週 金属と鉄</p> <p>第6週 強くて安心な材料</p> <p>第7週 腐食に強い材料</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 中間試験の解答および復習</p> <p>第10週 資源と材料</p> <p>第11週 材料と生物の関わり合い</p> <p>第12週 Problem Based Learning 演習(1)</p> <p>第13週 Problem Based Learning 演習(2)</p> <p>第14週 Problem Based Learning 演習(3)</p> <p>第15週 倫理と環境と材料</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 関数電卓を利用して、基本的な科学技術問題を計算できる。</p> <p>2. 周期表を理解し、元素の種類や名称を示すことができる。</p> <p>3. 元素の電子構造から応用方法を説明できる。</p> <p>4. 金属・セラミックス・高分子について違いを説明できる。</p> <p>5. 各種金属材料についての基礎事項を説明できる。</p>	<p>6. エネルギー社会における材料の役割について説明できる。</p> <p>7. 材料がいろいろな環境の中で用いられる時に問題となる様々な事柄について概略を説明できる。</p> <p>8. 問題解決をチームでできる。</p> <p>9. プレゼンテーションによって自分の考えを説明できる。</p> <p>10. 倫理、環境の中での材料工学の立場を説明できる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>社会における材料工学の役割について理解し、工学分野における専門的な学問を学習するための基礎能力を習得する。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～10を網羅した問題をレポート課題で出題し、目標の達成度を評価する。各項目の重みは概ね均等とする。レポート課題の全てが満点の60%以上を得点した場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 毎回異なる分野での材料工学に関する序論が講義され、今後の材料工学専門教科を学習する上での基礎となるので、興味を持って受講されることを望む。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 前期中等教育課程の数学および理科に関する基礎的な知識。</p>	
<p>[レポート等] 各トピック毎に適宜レポート課題が課せられる。</p>	
<p>教科書：ノート講義</p> <p>参考書：プリント配布</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>レポート課題の平均点で評価する。レポート課題の提出期限が遅れた場合、1日遅れる毎にその提出物の評価点から10点の減点をする。各レポート課題について、60点に達していないレポート課題については再レポートを課す。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>提示されたレポート課題が全て受理され、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
設計製図 I	平成 2 4 年度	万谷義和	1	前期	履修単位 1	必

[授業のねらい] 品物を製作する上で図面は必要不可欠なものであり、技術者となるために機械製図を学ぶということは必須のことである。本講義では、本格的な機械製図の基礎を確実に習得することが目標である。

<p>[授業の内容] 学習・教育目標&lt;B&gt;専門に相当する</p> <p>第1週 製図用具の使い方、図面に用いる線と文字の説明</p> <p>第2週 数字の練習ノート</p> <p>第3週 英字の練習ノート</p> <p>第4週 記号および漢字の練習ノート</p> <p>第5週 直線の練習ノート</p> <p>第6週 直線のつなぎ方、簡単な部品図の製図</p> <p>第7週 簡単な部品図の製図</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 曲線、円弧の練習ノート</p> <p>第10週 円弧と直線・曲線の製図</p> <p>第11週 円弧と直線・曲線の製図</p> <p>第12週 立体的な図示法の説明</p> <p>第13週 等角図の練習ノート</p> <p>第14週 等角図・キャビネット図の製図</p> <p>第15週 等角図・キャビネット図の製図</p>
---	---

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 図面に用いる線と文字の書き方を理解している。</p> <p>2. 製図用具の使い方を理解している。</p> <p>3. 直線の書き方、つなぎ方を理解している。</p> <p>4. 製図に用いられる直線の種類、使い分けを理解している。</p>	<p>5. 曲線、円弧の書き方を理解している。</p> <p>6. 投影法について理解し、書き方を理解している。</p> <p>7. 等角図について理解し、書き方を理解している。</p> <p>8. キャビネット図について理解し、書き方を理解している。</p>
--	--

<p>[この授業の達成目標]</p> <p>製図用具の使い方、図面に用いる線・文字、立体的な図示法および投影図の書き方等機械製図の基礎を理解し、簡単な部品の製作図作成に応用できる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」の1～8の確認を、提出された図面、後期中間試験、学年末試験で成績評価を行う。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とし、評価結果が百点満点の60%の得点で、目標の達成を確認する。</p>
--	---

[注意事項] 後期中間までに機械製図について、製図用具とその使い方および図面に用いる線と文字を講義する。後期末までに立体的な図示法および展開図について講義する。後期中間までに展開図、および製作図における線の用法と図の配置について講義する。後期末までに図示の工夫、および寸法記入について講義する。また、全ての講義において演習を中心に行い、出来るだけ多くの図面を製図する。本教科は後に学習する設計製図Ⅱの基礎となる科目である。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 最も基礎的なところから講義を進めるので、予備知識はほとんど必要がない。

[レポート等] 各授業における演習課題の提出を行う。

教科書：「機械製図」 林 洋次 監修 （実教出版）， 基礎製図練習ノート（実教出版）

[学業成績の評価方法および評価基準]

演習課題を20%、後期中間試験を40%、学年末試験を40%として評価し、評価の合計を最終成績とする。評価が60点に満たない場合は、新たに演習課題を課し、60点を上限に再評価することもある。ただし、未提出の課題がある場合には、学年末での総合評価を59点以下とする。

[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
材料工学実験	平成24年度	兼松秀行, 万谷義和	1	後期	履修単位2	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>現在、世の中で実用されている各種の材料（先端材料を含め）を取り上げ、ものづくり・体験型の基礎的な実験を通じてそれら材料の特性やそれが現れるメカニズム、合成方法や加工処理方法などを学ぶ。また、同時に材料のおもしろさや魅力を体験し、これから学ぶ材料工学に関連した専門教科への学習意欲の向上のきっかけとすることを目的とする。</p>									
<p>[授業の内容]</p> <p>全ての内容は材料工学科教育目標(B)&lt;基礎&gt;&lt;専門&gt;に対応 最初の2週には、テーマ(1)～(2)の実験の説明を行う。その後、クラスをいくつかのグループに分け、(1)～(4)のテーマについて数週間の実験を12週に渡り行う。最終週には、全体の実験に対する質問の時間を設け総括する。</p>	<table> <tbody> <tr> <td>(1) サイエンスフェア</td> <td>6週間</td> </tr> <tr> <td>(2) 七宝焼き</td> <td>2週間</td> </tr> <tr> <td>(3) 液晶・スーパーボール</td> <td>2週間</td> </tr> <tr> <td>(4) ガラス細工</td> <td>2週間</td> </tr> </tbody> </table>	(1) サイエンスフェア	6週間	(2) 七宝焼き	2週間	(3) 液晶・スーパーボール	2週間	(4) ガラス細工	2週間
(1) サイエンスフェア	6週間								
(2) 七宝焼き	2週間								
(3) 液晶・スーパーボール	2週間								
(4) ガラス細工	2週間								
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>(1)サイエンスフェア 実験計画、創造性・クリティカルシンキング、データの整理、プレゼンテーションに関する基礎知識について理解している。 (2)七宝焼き 七宝焼きの作製工程、セラミックスの焼成、金属とセラミックスの接合についての基礎知識を理解している。</p>	<p>(3)液晶・スーパーボール 高分子を利用した液晶材料の作製、高分子材料を利用した弾性素材の作製および高分子弾性材料についての基礎知識を理解している。 (4)ガラス細工 ガラスの性質および基礎知識、ガラス細工用の基本的な道具の使い方、ガラス管の切断法、曲げ方、接合法および球の吹き方を理解している。</p>								
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>上記の実験に関する専門用語および実験手法を理解しており、得られた結果を論理的にまとめ、プレゼンテーションやレポートによって報告することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>各テーマをプレゼンテーションまたはレポートにより評価する。「知識・能力」の(1)について40%、(2)～(4)については各20%の重みをつけて評価する。満点の60%の得点で、目標の達成を確認する。</p>								
<p>[注意事項]</p> <p>(1)提出期限は厳守すること。(2)実験開始前のガイダンスを行うので説明をよく聞くとともに、事前に実験指針をよく読み、必ず内容を理解した上で実験に臨むこと。(3)熱、電気、薬品等による危険を伴う作業をするので、安全には十分注意すること。必ず作業服を着用するとともに、必要に応じて安全眼鏡をかけること。本科目は2年次の材料工学実験、ものづくり実習の基礎となる科目である。</p>									
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 物理、化学等ですでに履修した基礎知識。</p>									
<p>[レポート等] 事前に教科書および実験指針をよく読むこと、テーマ(1)はプレゼンテーションの資料を作成し、発表練習をする。テーマ(2)～(4)はレポートを作成し、提出する。</p>									
<p>教科書：「初めての科学の祭典」（現代図書）、材料工学実験指針（本校材料工学科作成） 参考書：</p>									
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] テーマ(1)はプレゼンテーション、テーマ(2)～(4)はレポートによって100点満点の評価によって行い、(1)については40%、(2)～(4)について各20%の重みをつけて最終評価を行う。なお、レポートの未提出がある場合、そのテーマの評価を0点とし、最終評価を0.6倍する。</p>									
<p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>									